

## 令和3年仕事始め式 市長訓示

令和3年1月7日（木）午前11時

越前市生涯学習センター eホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も「元気な自立都市 越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上や、市民と協働のまちづくりにご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、一昨年末に中国・武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に蔓延し、我が国でも感染拡大が続いています。

福井県においては、昨年3月18日に初めて感染者が確認されてから12月31日までに355人の感染者が報告され、越前市においても、3月27日に最初の感染者が確認されてから12月31日までに29人の感染者が報告されています。

特に3月下旬から4月中旬にかけては、本市におい

て感染者が相次ぎ、大変緊迫した状況が続きました。

市では、2月18日に「市新型インフルエンザ等対策本部」を設置し、12月24日までに52回の本部会議を開催して、市議会のご理解の下、100億円余を計上した12回もの本年度補正予算を編成し、子育て世帯や特別障がい者の生活支援、福祉サービス事業所等への支援、中小・小規模事業者等への支援、公共交通事業者等への支援などを実施しました。

本年も市民の命と健康を守ることを第一に、全庁を挙げて、ワクチン接種をはじめ新型コロナウイルス感染症に対する対策を進めてまいります。

さて、昨年を振り返ると、本市が進める「半世紀に一度のまちづくり」やコウノトリが舞う里づくり、モノづくりの振興、共生のまちづくりなど多くの分野で大きな成果を上げることができました。

まず、昨年1月6日に新庁舎が開庁し、総合窓口の設置や申請書のワンライティング化などにより、市民サービスの向上や防災体制の強化が図られました。

現在は、県のシンボルロード整備事業と一体的に、庁舎前ひろばの整備を進めており、本年4月のグラン

ドオープン以降は庁舎前ひろばを活用し、市民との協働により多彩なイベントを開催してまいります。

また、武生中央公園は、昨年6月に公表された令和元年県内観光客入込数において、県内1位の約142万人が訪れました。

同公園のさらなる魅力向上と本年の「第70回たけふ菊人形」に向け、本年度から菊人形館と大型遊具の老朽化対策を進めており、水泳場については県内初のパークPFIとして、民間施設と連携した屋内プールの整備・管理運営計画の公募を実施し、計画の認定を行いました。

コウノトリが舞う里づくりについても、安養寺町の人工巣塔で昨年4月に孵化した4羽のコウノトリが6月から7月にかけて田んぼに降り立ち、ついに巣立ちが実現しました。

平成21年4月に市食と農の創造条例を施行して環境調和型農業に力を注ぐとともに、生きものとの共生を目指して、平成22年度に市コウノトリが舞う里づくり構想を策定し、取組みを進めてきた成果です。

モノづくりの振興については、県が昨年9月に公表

した令和元年県工業統計調査において、本市の製造品出荷額等は約6,656億円と、合併時の4,054億円と比べて60%以上増加し、県内1位として県全体の約3割を占めることが明らかとなりました。

また、3月には次世代リチウムイオン電池「全樹脂電池」の世界初の商業化を目指すAPB株式会社の本市への進出が発表されました。

市内企業の旺盛な求人を背景に、市の住宅支援施策の効果もあり、本市の人口は昨年1年間に140人増加しました。

特に外国人市民の増加が顕著で、本年1月1日時点で4,906人、市人口に占める割合は約6%となりました。

そこで、新庁舎の開庁に合わせ、1階窓口には外国人市民の生活に係る情報の提供や相談に一元的に対応する多文化共生ワンストップセンターを設置しました。

共生社会に向けては、昨年3月に市みんなの心をつなぐ手話言語条例も制定されました。

本年度は、市障がい者計画、市障がい福祉計画・障がい児福祉計画、市高齢者福祉保健計画・介護保険事

業計画の改定、並びに（仮称）市障がい特性に応じた情報・コミュニケーション条例の制定を進めており、本年3月に改定及び制定を行い、その推進を図ってまいります。

以上の通り、昨年も市政の各分野において、多くの成果を上げることができました。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の皆さんのご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本年は、北陸新幹線「南越駅（仮称）」の開業に向け、春には正式な駅名がJR西日本から発表される予定であり、昨年3月に策定した市南越駅周辺まちづくり計画の着実な推進を図ってまいります。

特に、令和5年春のオープンを目指す「道の駅」や「先行整備ゾーン」の整備を計画的に進めていくとともに、デジタルトランスフォーメーションやカーボンニュートラルの推進、スマートシティの形成を図るため、「先端産業ゾーン」や「未来創造ゾーン」が目指す産業集積に向けた「官民連携プロジェクト」の事業者を決定することが本年の最大の課題と考えています。

併せて、令和5年春の金沢・敦賀間の開業が1年程度遅れることは誠に遺憾であり、地方負担の軽減等を国に強く求めてまいります。

また、来年度は吉瀬川ダムの着工をはじめ、新ごみ処理施設の本格稼働、市環境基本計画の改定や水道料金の総合的な検討、「紫式部と国府資料館」の開館、「全国紙芝居まつり越前市大会」の開催など重要な事業が予定されています。

さらに、夏には東京オリンピックが開かれることから、本市出身のフェンシング・見延和靖選手と佐藤希望選手がリオデジャネイロ大会に続き、出場を果たすことを期待しており、両選手の応援を市民とともに行ってまいります。

佳境を迎えた「半世紀に一度のまちづくり」の完結に向け、越前市の15年間の歩みを振り返りつつ、本年も先人が築かれた本市の素晴らしい環境と文化をさらに磨き上げ、新たな魅力を創造し、市民が誇りを持てる「元気な自立都市 越前」を築いていく決意です。

職員の皆さんには、本市の未来に大きな夢を描きながら、本年もそれぞれの部署で職務に精励し、「現地現

場主義」の実践を通して市民のニーズを的確に汲み取り、市民の期待に応える市政の推進にご尽力をお願いします。

その際、毎年お話ししているように「着眼大局、着手小局」を心掛け、全職員が20年先、30年先の越前市を見据える大局観を持つ一方、目の前の課題に丁寧に取り組み、当たり前のことを確実に実践する風土を庁内に築いていきたいと考えています。

併せて、前例に捉われることなく、従来の思考や手法を大胆に見直していくためにも、若手職員や女性職員が積極的な提案を行うとともに、その提案が活かされる柔軟で明るい職場を作っていきたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染拡大に留意しながら、本年も「現地現場主義」をモットーに、市民と協働のまちづくりを進めてまいりますので、市政の発展と市民福祉の向上のためにご尽力をお願いします。

結びに、本年も皆さんが心身ともに健康で、大いに活躍されることをお祈りし、「令和3年 仕事始め式」の訓示といたします。

本年も、よろしくをお願いします。